

## V 事例編

この事例編では、様々な運営や活動の事例を紹介しますが、特定の方法を推奨する意図はありません。また、「事例」と題してはありますが、PTA活動は主体的であるべきものですので、あえて詳細を掲載せず、アイデアの紹介にとどめているものもあります。すべてのPTAが取り入れるとよい「魔法のような方法」はありません。あくまで参考資料としてご活用いただければ幸いです。

**Q105 来年度から入会申込書で意思確認を取るようになる予定ですが、入会を促すためのよい方法がありますか。**

A105 入会を促すチラシを作成し、入会申込書と一緒に配布するようにします。

チラシには、例えば、「PTAは怖くない」「一人じゃできないことも、みんなとならでる」など、不安感を和らげたり、入会する意義を伝えたりする内容を盛り込んで作成するとよいでしょう。

次ページに、周知するとよい内容をチラシの形にして掲載しますので、参考にしてください。イラストや写真を効果的に使って読みやすくすることも大切です。チラシの作成にあたっては、デザインをすることが好きで「やってもいい」という人を募集するとよいでしょう。

**Q106 チラシ以外に、入会を促すためのよい方法がありますか。**

A106 動画編集が得意な役員が「PTAの紹介動画」を作成し、映像で加入を促した事例があります。

動画編集が得意な役員がない場合、業者に作成を委託する方法もあります。

しかし、過度に加入を促しすぎて「強制」と捉えられないよう留意することなどが必要です。

子どもたちの  
健やかな成長のために

〇〇小学校PTAに入会をお願いします！



子どもたちのためのよりよい教育を行っていくためには、教育の当事者である保護者と教職員が、つながり合い、支え合う必要があると考えます。そのような保護者と教職員の協力体制および関係づくりにおいて、PTAは重要な役割を果たしています。

入退会自由です。  
役員や委員を無理強いすることはありません。  
安心してご入会ください。



PTAは、

- ・ 会員同士が交流し、学び合い、高め合う機会を設けます。
- ・ よりよい教育環境を目指して、地域や関係機関に対して連携を図ります。

参考として昨年度の活動内容を裏面に掲載しましたのでご覧ください。

**Q107 多くの方に参加してもらえ「家庭教育セミナー」の方法はありますか。**

A107 ウェブサイト「e-ねっと\*なごや」(QA71を参照)の動画の視聴をもって、家庭教育セミナーの開催とすることで、より多くの保護者に、無理なく学びを広げることができます。

動画を視聴した感想をフォームやメール等で送ってもらい、資料にまとめて配布することで、学びの共有を図っている事例もあります。

**Q108 日時や場所を決めて行う形式以外のパトロール活動の方法はありますか。**

A108 日時を決めて、集まってパトロールを行うのではなく、パトロール期間を設定し、その期間中で都合のよい時(買い物や散歩のついでなど)に自宅周辺の地域の危険箇所を点検してもらう、といった方法もあります。

パトロールの結果をフォームやメール等で報告してもらい、それを資料にまとめて配布することで、情報共有を図っている事例もあります。

各PTAのパトロールの実施方法については、名古屋市立小中学校(園)PTA協議会のホームページに資料が掲載されていますので、参考にしてください。



【名古屋市立小中学校PTA協議会のホームページ】

**Q109 PTA全市一斉パトロールの重点校の取り組みをなるべく負担をかけずに行う方法がありますか。**

A109 重点校のパトロールは、毎回区内で1団体ずつ、持ち回りで実施されています。前回実施した重点校のPTAに問い合わせ、関係機関等との調整の仕方やパトロール活動の方法、事後の振り返りの仕方などを聞き取るとともに、その時に作成した資料をもらうなど、参考にすることで負担軽減が図れます。

重点校パトロールは、警察や土木事務所などの関係機関に危険箇所を見てもらい、その場で対応について判断してもらえ、とてもよい機会です。一方で、数年に1度しか機会が回ってこない、引き継ぎ資料も残っておらず、どのように取り組めばよいか戸惑う担当者もいるようです。

せっかくの機会ですので、安易に「なくしてしまおう」と判断せず、上記の方法を含めて、実施を検討していただければ幸いです。なお、前回どこの学校(園)のPTAが実施したのかといった情報は、年度初めに周知する資料の中に「重点校一覧」として掲載されておりますので、そちらを参照してください。

**Q110 効率的な広報紙づくりの方法を知りたいです。**

A110 「編集会議等の機会を少なくするとともに、リモート会議のシステムを活用することで、何度も学校（園）に集まらなくても済むように工夫する」といった方法があります。また、「記事の内容や写真等の素材のみを担当者で作成・用意をし、紙面のデザインや印刷等のその他の作業についてはすべて業者に委託する」といった方法もあります。

ほかにも、「広報紙づくりが好きでやってみたいという人を募集し、集まった人が無理なくできる範囲の紙面内容・発行回数で行う」といった方法もあります。なお、募集した結果、必要人数が集まらなかった場合は「広報紙を発行しない」と割り切って考えることなども必要です。広報は、PTAのことを知ってもらうために欠かせないものではありませんが、それを実行することが過度の負担となってしまうはいけません。従来通りに縛られずに、様々に工夫をするとよいでしょう。

**Q111 広報紙以外の広報の事例について教えてください。**

A111 紙媒体による情報発信にこだわらず、メールやホームページで情報を発信するといった事例もあります。また、最近では、動画配信や写真投稿など、各種SNSを活用した広報の事例も見られるようになってきました。

近年、メールやSNSなど、比較的気軽に情報発信できる方法が取り上げられるようになってきましたが、そのような方法の扱いが得意な人ばかりではありません。方法にこだわりすぎず、その時々の方の担当者の事情に応じた、柔軟な対応をするとよいと考えます。また、ホームページやSNSで発信する場合、動画や写真等の掲載について、肖像権等の配慮を欠かさないようお願いいたします。



**Q112 学校（園）の周年行事にあわせて、PTAでも何か取り組みたいと考えています。魅力的な取り組みの事例があれば教えてください。**

A112 業者に依頼して、記念映像DVDを作成した事例があります。

学校（園）が「記念誌」を作成することはよくある事例ですが、映像にすることでその周年時の様子がより分かるように記録として残すことができます。

この事例において、記念映像DVDの作成費用は、PTAの特別会計（周年行事のための積立金）から支出しています。また、記念映像DVDは、学校（園）への寄附とするのではなく、子どもたち一人一人に記念品として渡す形をとっています。

Q113 「家庭教育セミナー」でどんなテーマを取り上げたらよいですか。

A113 担当者自身が「参加したい」と思えるテーマを選ぶことが大切です。また、会員にアンケートを取って、人気の高かった内容を取り上げるのもよいでしょう。

ただし、ニーズだけを追ってしまい、家庭教育と無関係の内容にならないように気を付ける必要があります。

「家庭教育セミナー」は、参加者の家庭教育支援につながる内容にしてください。また、運営担当者に過度な負担のかからない運営方法を考えることも大切です。以下に、内容を検討する際の方法を紹介します。

- ① テーマのニーズ把握のアンケートを実施する際、あらかじめアンケートの選択肢を家庭教育に関係あるものに指定する。
- ② 親子で共に学べる内容にする。
- ③ 家庭教育に関する話を取り入れてもらうよう講師に依頼する。

①は、家庭教育に関係のあるテーマの中から「参加したい」と思うものを選んでもらうといった方法です。ただ、「家庭教育に関係のあるテーマ」といった制限の中から選んでもらうので、本当に関心のあるテーマにつながっているか検討が必要なこともあります。

②は、親子で共に学ぶことで、親子のふれあいやコミュニケーションを促すことをねらいとします。ただ、②の場合、親だけでなく、子どものニーズも満たす内容にする必要があります。

③は、有効な方法ではありますが、その講師が家庭教育の内容を取り扱うことができないケースもあるので、講師選定に留意が必要です。

例えば、ニーズ把握のアンケートの結果、「ヨガ・ピラティス」の人气が一番高かったとします。このまま取り入れると家庭教育のテーマには不向きなので、「家庭教育セミナー」として扱うには、適切とはいえません。

そこで、『親子ふれあいヨガ教室』というように、②の要素を加えてみます。すると、「ヨガ」というニーズの高いテーマを扱ったまま、「親子のふれあいを促す」といった家庭教育の要素を含めることができます。

また、『子育て経験豊富な講師から学ぶ ピラティスでリラックス』というように、③の要素を加え、ピラティスの合間に、講師による家庭教育や子育ての話を取り入れてもらうようにします。すると、「ピラティスをしながら家庭教育にもつながる内容」とすることができます。さらに、学んで気付いたことなどを参加者同士や各家庭で伝え合うことでより深い学びにつながります。

その他としては、学校（園）の周年行事にあわせて、学校（園）と共催する形で、「著名人を講師として招いての講演会」を企画した事例もあります。PTA側から司会者を立て、司会者と著名人の講師とのトークセッション方式で行ったり、子どもや保護者からの質疑応答の時間を長めに取ったりするなど、様々な工夫が考えられます。

**Q114 PTAが実施するとよい、おすすめの活動事例について教えてください。**

A114 PTAには地域団体という側面もあり、災害時には避難所の自主運営に関わることも想定されます。その時に備えて、「防災」をテーマとした取り組みをするとよいです。また、学校（園）で「キャリア教育」が推進されていますが、PTA会員には様々な職種の大人が関わっているので、それを生かした取り組みも考えられます。

具体的な事例として、「防災」については、『学校に泊まろう！避難所生活体験』『親子で挑戦！防災クイズラリー』『家族で作ろう！手作り防災グッズ』などが考えられます。「キャリア教育」については、『職業講話～働く人から話を聞こう！～（PTA会員から仕事の話をしてくれる人を募集。体育館や特別教室内に職業別のミニブースを設け、子どもたちが仕事の話聞けるようにする）』『おしごと体験（PTA会員が勤める職場に職場体験の受け入れをしてもらう）』などが考えられます。

なお、「防災」については、地域の消防団等と連携を図るとよいです。「キャリア教育」については、単なる職業紹介で終わらないように、活動のねらいや内容について、学校（園）とよく打ち合わせをして進める必要があります。

**Q115 魅力的なPTA活動を新しく企画するコツはありますか。**

A115 子どもたちがよく見ているテレビ番組等から発想を得た事例があります。

また、子どもたちに事前アンケートを取るなどして、子どものニーズを把握したり、子どもと一緒に企画したりすることもよいでしょう。

例えば、子どもたち向けのPTA主催のスポーツイベントとして、テレビ番組をモデルとした鬼ごっこを行った、といった事例があります。これは、運営側として参加する大人にとっても「楽しそうだ」と思わせる企画です。

また、中学校で行われた、職業紹介の講師をPTAが行った事例や、大人・子ども・地域を参加対象にした「コミュニケーションアップ講座」を開催した事例もあります。

「ご当地ヒーロー」をPTAで設定し、あいさつ活動やパトロールなどのイベントに参加して盛り上げる、という事例もあります。

子どもたちを楽しませる活動もPTA活動の一つですが、参加する会員も楽しむものを企画できるとよいでしょう。

企画を考えるのは、一般の会員にはできない「役員や委員の特権」です。上記の留意点を踏まえて、楽しみながら、企画立案をしていただきたいと思います。